

持続可能なまちの実現を目指して——

(仮称)地域交流センター整備を推進

本市では、人口減少や少子高齢化に伴い都市構造が変化し、空き地や空き店舗が増加するなど、中心市街地のにぎわいが失われつつある厳しい状況にあります。

また、中心市街地に立地する庁舎等の施設は老朽化が進み、今後どのように維持・更新していくのかが大きな課題となっています。

こうした課題に対応するため、公共施設を再編し、多機能型複合施設として(仮称)地域交流センターを整備し、世代を超えた交流の場と活動の拠点を作ること

中心市街地の活性化と持続可能なまちづくりを目指し、取り組みを進めてきました。

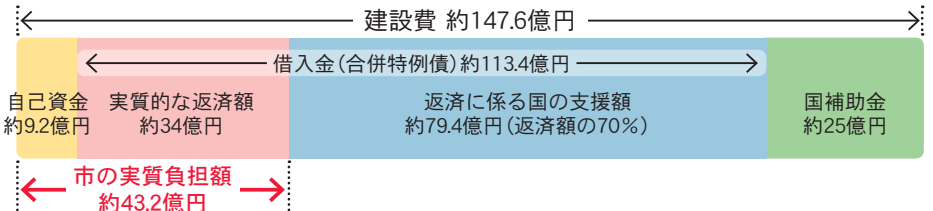
しかし、今後も人口減少が見込まれる中、多額の事業費を投じる施設整備の必要性やそれに伴う将来の財政負担、建設予定地の災害対策への懸念もあるため、(仮称)地域交流センター整備に係る基本設計を進める一方、既存庁舎の修繕による将来的な財政負担を把握する現況調査を実施してきました。これらの成果を踏まえ、今後の事業の方向性をお知らせします。

1. 基本設計の概要



項目	基本設計
建設工事費	約138.8億円
建設関連費(設計等)	約8.8億円
合計	約147.6億円

※合併特例債の借入に係る利子は含んでいません



2. 既存庁舎の現況調査の概要

庁舎における将来の財政需要(修繕費)を把握するため、登米市公共施設等総合管理計画の個別計画に基づき、中田・南方・登米・石越庁舎の建物および設備の劣化や不具合状況等を調査しました。

この調査では、各庁舎の劣化度、危険度、施設への影響度をそれぞれ評価すると

もに、評価結果を総合的に判断し、修繕の優先度を付けながら施設の目標使用年数(65年)までの修繕費を算出しています。

調査の結果、屋根や外壁、空調設備等修繕の優先度が高い評価項目が全体の半数を超えるなど、4庁舎に必要な修繕費の合計は約140.2億円となっています。

区分	修繕費
中田庁舎(築38年)	37.2億円
南方庁舎(築21年)	51.8億円
登米庁舎(築27年)	22.9億円
石越庁舎(築27年)	28.3億円
合計	140.2億円

3. 将来的な財政負担の比較

【単位：億円】

区分	34年間のコスト	試算内容	運用コスト (光熱水費)	保全コスト (維持・修繕)	建設コスト (設計・工事・解体)	合計
既存施設を継続利用		迫・中田・南方・登米・石越庁舎、迫公民館、迫保健センター、迫図書館を現在と同規模で維持	22.8	196.5	130.6 迫庁舎、中田庁舎等	349.9
(仮称)地域交流センターを建設		(仮称)地域交流センターを建設、中田・南方・登米・石越庁舎は現在と同規模で維持。迫庁舎、迫公民館、迫保健センターは解体、迫図書館は廃止	26.6	203.3	93.9※ (仮称)地域交流センター、中田庁舎、関連施設(解体)	323.8
34年間の差額						26.1

※(仮称)地域交流センター建設費(令和8年度以降の建設費約142億円)については、実質的な市負担額を計上するため、合併特例債借入に係る利子を加えたうえ、国補助金と合併特例債の返済に係る国支援額を除いています

注)上記の試算は総体的な経費を把握し、パターンごとの市の負担額を比較するために試算したものです

【試算の前提条件】

- ・(仮称)地域交流センターを建設した場合に想定する供用開始(令和12年)後、30年間のコストを試算(全体で34年間)
- ・鉄筋コンクリート造、鉄骨造ともに計画建替年を65年目と設定(「建築物の耐久計画に関する考え方(日本建築学会)」を参考に設定)
- ・国土交通省監修のライフサイクルコスト計算プログラムを用いて、床面積入力法により試算
- ・大規模改修のほか、5～15年周期で発生する定期修繕も保全コストとして計上
- ・中田、南方、登米、石越庁舎の改修・修繕コストは、既存庁舎現況調査の成果により算出(保全コストに計上)
- ・(仮称)地域交流センターの建設コストは、基本設計の成果により算出

4. (仮称)地域交流センター整備事業の方向性

(仮称)地域交流センター整備事業については、将来的な財政負担や建設予定地周辺の浸水被害リスクといった懸念事項に関する議論が十分ではない状況を踏まえ、改めて施設の必要性を検討してきました。

その結果、「既存施設を継続利用」する場合と「(仮称)地域交流センターを建設」する場合の2パターンで比較したところ、「(仮称)地域交流センターを建設」する場合の方が市の実質的負担が少ないことが明らかになりました。また、施設建設により浸水対策が講じられるほか、宮城県みやぎけんの長沼川河川改修事業や本市の道路側溝土砂浚渫事業により、周辺エリアの浸水被害リスクに対しても、一定程度の低減が見込まれます。

一方、人口減少が続く中で合併前の旧町で建設した施設の更新時期が順次到来し、国からの財政支援の見通しが立たないことから、維持更新に伴う将来的な負担増加が懸念されています。

これらを総合的に勘案し、次世代に大きな負担を残さないため、まちづくりの核となる施設として、(仮称)地域交流センター整備を推進していきます。今後は、建設コストの動向を注視しながら計画的かつ着実に事業に取り組みます。本市の最上位計画である「第三次登米市総合計画」の実現を目指した取り組みを通じて、登米市に「生まれて良かった、住んで良かった」と感じてもらえるよう、持続可能なまちづくりを推進していきます。

市民説明会を開催します



これまでの検討経過と今後の事業の進め方などについて、詳しく説明します。

【問い合わせ】

総務部政策推進室(政策マネジメント係)

☎0220(23)7353

✉seisakusuishin@city.tome.miyagi.jp

日程	開始時間	会場
7月27日(月)	18:30～	迫公民館 2階 軽運動場
7月28日(火)	18:30～	南方公民館 ホール
7月29日(水)	10:00～	津山老人福祉センター 2階 集会室・運動指導室
	18:30～	中田農村環境改善センター 多目的ホール
8月2日(日)	10:00～	石越総合支所 2階 多目的ホール
	14:00～	中津山公民館 多目的ホール
8月3日(月)	18:30～	豊里公民館 中ホール
8月9日(日)	10:00～	東和総合支所 3階 大会議室
	18:30～	登米総合支所 2階 201～203 会議室

※事前申込は不要です。会場設営の都合から、開場は開始時刻の30分前となります
※参加者は、市内在住の人または市内に通勤、通学している人などが対象です